

令和6年度 第3回 九段中等教育学校 学校経営評議会 会議録

日 時 令和7年3月14日（金） 午前10時から午前11時30分
場 所 九段中等教育学校 九段校舎 会議室

内容

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 令和6年度 学校経営方針実現に向けた取組について
- 4 令和6年度 学校経営診断評価アンケートについて
- 5 その他
- 6 閉会

○経営企画室長 それでは、皆さんおそろいですので、第3回の「学校経営評議会」を始めさせていただきます。

本日は、御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

評議会に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。

まず1点目、本日の次第。2点目、資料1と振ってありますが、令和6年度学校経営方針実現に向けた取組（最終報告）。3点目、資料2と振ってありますが、令和6年度重点目標と数値目標（最終報告）。4点目、資料3と振ってありますが、令和6年度学校経営診断評価アンケート結果。資料4として至大荘行事関連資料、あと、座席表、それから、前回の議事録の校正依頼を緑の封筒に入れさせていただいております。前回欠席の委員の方についてはお配りしておりませんので、御了承いただきますようお願い申し上げます。

以上でございます。

過不足等ございましたら、お申し出いただきたいのですが、皆様、資料のほうはよろしいでしょうか。

それでは、ここからは会長に議事進行をお願いいたします。

○会長 おはようございます。

今日は皆さん、どうもありがとうございます。

企画室長、教育委員会がまだ到着されていないようですが。

○経営企画室長 所用があるようで。

○校長 議会をやっているのです。

○会長 始めてしまってよろしいですか。

○経営企画室長 大丈夫です。

○会長 本日、令和6年度第3回の「学校経営評議会」を開会いたします。

では、初めに、九段中等教育学校を代表いたしまして、校長先生から御挨拶をお願いいたします。

○校長 おはようございます。朝早くからありがとうございます。

本校の取組について、またこの後担当から話がありますが、まず、生成AI大賞2024において優秀賞をもらったということで、ベスト8に入っているという形になるのですけれども、賞をもらっているところはほとんど大手の企業ということで、例えば名古屋のほうの名鉄グループですとか、セブン&アイ・ホールディングスといった中に唯一学校が、九段中等が入ったというようなことで、その反響が非常に大きいなと思っておりますと同時に、また、生徒も、この間ベネッセ主催の探究コンテストというのがあったのですけれども、応募総数1,300なのですが、グランプリを取った。

そういったことで、本校が取り組んでいる教育DX、生成AI、それから、探究プログラムも今年度から始めたのですけれども、非常にこちらへの来校希望が多く、100を超えて、今日この後午後、北海道教育委員会と帯広市教育委員会が来るのですけれども、そういった教育委員会とか、また、県議会とか区議会といったところからも非常に多くの視察をいただいているところです。

また、先々週になりますかね。文部科学大臣が見たいということで来ていただいて対応したということもあつたのですけれども、そういったことで全国的にも有名になっております。我々の知らないところでいろいろと九段中等の商業をしていただいている。この間もヤフーニュースにデュアルディプロマの取組ということで3月5日に出ておりましたし、また、『PRESIDENT』という企業がよく取り組んでいる雑誌があるので、その動画の中で九段中等という非常に人気のあるすばらしい学校がということで話が、全然こちらは知らなかったのですけれども、それを見た方々からこんなのを言っていたよみたいなことでいただいているということで、たくさんの方が来られることによって、教員もそうですけれども、生徒自身もいろいろとやる気というか、活気というか、外から見られることによって生徒たちも楽しんで授業に取り組んでいるということかなと思います。

本日は最終の会ということで、いろいろ学校経営方針に基づく最終結果も出ております。大学の実績等については生徒が頑張った成果ということで、特段表立って出すことはないのですけれども、前期の結果は、今のところ出た実績でいうと、東京大学が3名ですとか、あと、京大2名、昔でいう東工大、今は東京科学大学という東工大と医科歯科大が一緒になりましたが、東工大にも2名とか、医学部にも入っておりますし、医学部は前期で今のところ4名の報告が上がってきている。その他の大学にも多数生徒が頑張っているというところです。学校は探究という形で新たな探究プランをスタートしていますけれども、その結果を要するに総合型の受験に活用しているというところもあり、医学部ですとか、医科歯科大の総合型でつくばの総合型に合格したというようなところもありますので、生徒もいろいろと学校の活動を有効に活用しつつ、進学に努めている。

本校としては大学進学が目的ではないので、その先のことも見据えながら生徒に力をつけていきたいと思っている次第です。またいろいろと御評価いただければと思います。よ

ろしくお願いします。

○会長 ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に従って進めてまいりたいと思います。

次第の3「令和6年度 学校経営方針実現に向けた取組の最終報告」ということで、御説明をお願いいたします。

○前期副校長 よろしくお願いします。

私からは、分掌の知の創造部、豊かな心育成部、あと、1、2、3年生についてお話ししたいと思います。

資料2を御覧ください。

まず学習指導、重点目標としては教員の指導力向上、最先端教育プログラム開発・デジタル機器活用の授業拡充とありました。目標としては、自学自習に関する肯定的割合85%以上、これは生徒による授業評価アンケートです。授業でのデジタル機器活用100%ということを目指しており、達成度はそのアンケートによって自学自習に関する肯定的割合は90%以上となっております。授業でのデジタル機器活用は100%となっております。PC、また、システムも新しくなり、ICTの環境もよくなっておりますので、さらに活用していきたいと考えております。

次に、生活指導についてです。基本的な生活習慣の定着、いじめ防止研修の実施というところで、数値目標はいじめ報告ゼロだったのですが、達成度はいじめ報告は7件ありました。大きなものに発展する前というところで、その都度いじめ対策協議会を開き、生徒指導を学年、豊かな心育成部と協力して行っております。今後もゼロを目指していきたいと思います。

オの健康づくりの横にあります不登校生徒に関する研修の実施というところで、不登校生徒の授業への関係率100%を目標に挙げておりました。達成度のパーセンテージは出ていないのですが、校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）というのを富士見校舎に設置しております。そちらに現在1年生1名、2年生3名、3年生2名、5年生1名が通っておりまして、学校の教室に通えなくても、そのスペシャルサポートルームならば通えるというような場所を提供して、見守る教員というか支援員が1人おりまして、そのところで静かな時間、勉強したり、オンラインをそこでできたりという環境をつくっております。

次に学年についてです。

資料1の1年生からお話ししたいと思います。

まず1年生なのですが、中学校に入って定期考査というものが新たに始まりましたので、まずは考査の学習計画を立てさせ、自分の学習状況を自覚させております。主要教科であります英数国ではフォローを必要とする生徒への補習、意欲が高い生徒の学習環境を毎週金曜日の放課後及びそのほか必要に応じて設定しております。また、様々な行事ごとに振り返りを行い、経験して考えたことを通り一遍の反省ではなく自分の経験として

言語化させています。

次に2年生です。2年生は、担任や教科担当からの指導と併せて、ホームルーム委員や班長などを中心として落ち着いて学習できる教室座席を決めたり、生徒同士で注意し合ったりすることで、全クラスにおいておおむね授業規律を守ることができています。また、高校受験がないため、将来の進路について考えている生徒が少ないという現状があります。生徒の話を丁寧に聞きながら、未来を考えさせつつ、今やるべきことを確実に行わせるようにしております。

続いて3年生です。3年生も英数国の朝学習、朝読書、放課後スタディーを継続して実施しております。生活指導においては、ホームルーム委員が主体となり、各学級の振り返りを行っています。また、学年集会も生徒が主体となって運営しており、学年、学級としての改善点を述べています。後期課程に向けて、先生たちも自立を促すような指導を継続して行っております。

そして、各学年とも二者面談を行い、コミュニケーションを図って担任団と信頼感を築いているというところであります。

以上です。

○会長 では、前半、御説明をいただきましたので、ここまでの内容で御質問等はおありでしょうか。

どうぞ。

○委員 よろしくお願ひします。

最後の3学年のところの最後の進路・キャリア教育に向けてというところで、二者面談、これは3年生から今度は4年生になっていくので、先生方の面談の内容はそれぞれ違うと思うのですけれども、どんなところに主眼を置いて先生方が生徒と二者面談をしているか、その内容があれば教えてください。

○前期副校長 3年間の振り返りのところと、いわゆる高校課程、後期課程に向けて不安がないかどうか、あとはクラス関係で悩んでいることはないかといういろいろな不安を取り除くということがメインであります。すぐに進路が決まるというところがないので、基本的には高校に向けての心構えとかそういうのを確認し合ったり、不安を取り除いて穏やかに学年が移行できるようにというような面談をしております。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかにはよろしいでしょうか。どうぞ。

○委員 報告ありがとうございました。

やはり気になるのがいじめの報告7件というところなのですが、報告は結果の部分だと思うのですけれども、むしろ「いじめ」が行われなかったための施策というか、施策のイベント数とか、防止プロセスの実施状況を管理していく必要があるのではないかと。結果として「いじめ」が先生方の目の届かないところで行われるところについての学校の「いじめ」発生件数を管理するのがよいのか、防止プロセス数値管理、すなわち「いじめ」

防止に向けた取り組みの集会をやることとか、ホームルームでいじめを起こさない取組をやりましたとか、そういうプロセス面の管理が必要かと思います。プロセスの管理を来年以降は見ていくというのは、お考えはございますか。

○前期副校長 まず、いじめの発見のところなのですけれども、本人からの申出も当然あるのですけれども、先ほども言いました二者面談とか、そういうところで定期的に先生がこちらからも話す機会をつくることによって出てきたというものも幾つかあります。そのところをしっかりと聞き取りをして、関係する生徒等に丁寧に話を聞きながら、本人からこれはいじめですという申出があったわけではないものの、本人が嫌がっているのでいじめであろうということで、こちらとしては大きく捉えてというふうに件数も増えているところがあります。

いじめに対して生徒にどのように話をしていくかというのは、中学校では道徳の授業等もありますので、そのところで教材を扱ったり、生徒に向けて先生がお話をする時間をもち、そういうことはよくないのだと。いじめという人が嫌がることをしてはいけないのだということを心の教育として行っているというところでもあります。

なので、来年度に向けては、定期的に二者面談をすることも大事ですけれども、先生たちが目を配っていく学校体制でみんなを見ていくというところをもう少し強化していきたいなと考えております。

○校長 法令等で年に3回アンケートを取らなければならないですし、その結果に基づいて管理者が全部確認をして、気になる事項がある場合には面談をする。そういったところから発覚する場合がありますし、あと、ふれあい月間ということで、生徒たちに例えばネット上のトラブルだったらそういったところの専門家の方に来ていただいて講習をやるとか、それから、学校ではスクールサポート委員会というのをこれも年3回、いじめ対策委員会も含めて外部の先生も呼んでということでやっておりますので、そういった対策をしている。逆に言うと、よく発覚できたなど言ったらおかしいのですけれども、大きくなる前に未然に防いできているのはそういった取組もあるからこそだとは思いますが。

○委員 やはりゼロという目標はなかなか、かなりバイアスがかかってしまうのではないかなと。前回、1年前の3月の会でも「0」目標は難しいのではないかと話題になっていたと記憶しています。

○校長 これを1件とか3件とは書けないのですよ。ゼロなのです。あくまでもゼロです。ゼロを目指さないと、根絶しないといけないので、今年は7件だったので今度は5件でいいなんて、5件を許すことになってしまいますので、いじめはゼロ。体罰もそうなのですけれども、体罰とかそういった関連についても根絶ということを教育委員会としても使っていますので、これは逆に件数を書きってしまうと、校長としては1件ぐらいしようがないかということになってしまいますので、そこは御理解いただければと思います。

○委員 逆に7件というかなりの数字を上げてきていただけること自体が、こういう取組を隠さずにやっている感があるなどは思ったのですけれども、0対7と見てしまうと何と

いうところもあるし、逆にその前のプロセスで、今、副校長先生から説明があったような面談をするとか、道徳の時間を活用しているかというところの取組という取組は、「いじめ」の発生件数だけ目標にしてしまうと見えなくなってしまうので、その辺りをいじめの対策という意味では、外部的には7件だけが独り歩きするのはもったいない感じもするというのが感想ではあります。

○会長 ありがとうございます。

ほかにはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

今に関連して私のほうから確認をさせていただきたいのですが、ここでいじめ報告7件とありまして、オのところで先生が御報告されたスペシャルサポートルームへの生徒さんが7名というのがある。これはたまたまの一致ですか。あるいはこの方々が。

○前期副校長 ではないです。

○会長 そうですか。たまたま数字が一致している。

○前期副校長 たまたま数字が一緒なだけです。

○校長 全く関係ないです。いじめの子たちは不登校になっているわけでも何でもない、いわゆる被害と言われた子が不登校になったという事例はないのです。それが不登校になったりすると、今度は重大事態案件ということになって、もっと大きな対策をして、状況によっては区長必置の調査委員会を立ち上げなければならない。そういったことではないです。

○会長 この中で、オのところで不登校生徒の授業への関係率100%ということになって、右側に7名の方がスペシャルサポートルームに来られていると。教室には出られないけれども、ここだけというお話ですが、この生徒さんたちというのは毎日スペシャルサポートルームに来られているのですか。たまに来られるのですか。

○前期副校長 それは週に1回はお約束をしているというのが現状で、そのところでその1週間何をしてきたかという学習状況報告みたいなのをしてもらっています。なので、授業に出たというのはあれですけども、何でしたか。

○校長 出席の取扱いね。オンライン等です。

○前期副校長 そうです。すみません。出席扱いにできるということになっております。出席ではないのですけれども、みなしております。

○会長 分かりました。ありがとうございます。

ほかによろしければ、後半のほうをよろしくお願いいたします。

○後期副校長 よろしくお願いいたします。

着座にて説明を失礼いたします。

私の担当するところは、資料1でいいますと3枚目の未来貢献部になります。こちらに具体的に書いてありますので、私も資料2のほうの別表に達成度をまとめましたので、こちらを用いて説明させていただければと思います。

上から3つ目のウ進路指導のところになります。現6年生、もう卒業しましたけれども、

皆頑張っており、取り組んでいました。その中で、大学入学共通テストのところは目標値とする得点率91%以上10名のところは5名ということでしたが、多くの生徒が頑張っており成果を出してくれています。フル型受験、フルの科目、全ての受験型でいいますと、得点率のほうは70%のところを77.9%と超えてきたので、よく頑張ってくれたのではないかなということで、進路部のほうも取組の成果が出たかなというところで報告が上がっております。

達成度のポツの3つ目なのですが、公立大学の現役合格者が3月12日時点の集計した数値になっております。現在も後期まで頑張っている生徒が複数いますので、残念ながら前期で結果が出なかった生徒も、きっと後期で成果を出してくれるのではないかなというところで今後の数字は伸びてくるかと思っております。

総合型選抜、また、学校公募型選抜、学校公募についても複数受けていたのですけれども、6年生はやはり目指すところもより高いところをということでチャレンジした生徒も複数おりました、10名以上というところでしたが、8名という結果にはなっております。ただ、先ほどもあった東京科学大も総合型、公募で総合型1名、学校公募で2名というようなところもありますし、お茶の水女子も公募1、東京外語大も公募で1ですとか、様々6年間で学んできたところを生かした、そういったものを用いて大学受験に臨んでいる生徒も増えているところが現状になります。

難関国公立大につきましては、そちらに示させていただいたとおりになります。

未来貢献部としては、総合型、学校公募型の受験の生徒が多くなっているところで、学校全体でサポートできないか。未来貢献部の人数も限られていますので、今年度については、各分掌、教科といったところと小論文については連携してサポートしてみたり、あと、面接指導のほうもしっかり執り行わなければ本番で成果が出せないというところで、各分掌から1名ないし2名協力を得て、学校全体でサポートした。そういった取組が今回の成果に結びついたのではないかなというところで報告が上がっております。

来年度については、さらに生徒の希望した進路実現が果たせるように体制をより整えていくというところで次年度への課題としております。

続いてが学校広報を主に担当するSMP部です。資料1については未来貢献の次のページになります。

資料2については、力の広報活動というところになってまいります。こちらについては、より九段の魅力を広く多くの方々に知ってもらいたいというところで、学校ホームページの充実、また、学校ブログを実際に生徒のほうに考えさせて、最終的には担当する教員、さらには私のほうで最終的な内容をチェックしてホームページにアップはしているのですが、生徒の生の声が届くようにというところで広報活動にも努めてまいりました。

また、九段コズミックですとか天体観望会、こちらにも非常に毎回応募倍率が10倍を超えてくるのですけれども、そういった広報活動、また、学校公開、学校説明会も多数御参加いただきまして、区内の受験倍率については2.0倍強というところで2.78倍ということで、非常に今年度については区内から、A区が千代田区在住の生徒の受験区分ですので、

そういったところで地元から御評価いただいた結果というところで成果は出ております。

SMP部についても、今、ちょうど学校のホームページのリニューアルを図っているところで、さらに充実ができるように今後取り組んでいき、広報活動に力を入れていくというところで報告が上がっております。

続いて、資料1については1枚については1枚めくっていただき、CNVというところになります。こちらは主に海外での研修または探究活動について担当している部署になります。資料2でいいますと、エの特別活動に該当してきます。

こちらについては、探究の発表会を前期、後期ということで、今まで探究した成果を発表する機会を外部公開、外部委員の先生をはじめ、視察でぜひこの機会で見させてほしいという声もありましたので、そういった視察を受け入れ、全国からお客さんを招いて外部公開を2回行いました。参加された全国各地の先生からは、どうしても探究活動という、先生方は教えることが好きなので、自分の知っている範囲で探求活動を教えてしまいがちなのですけれども、本校については生徒それぞれが興味、関心を持っているところをのびのび発表していますねと発表会の後の情報交換会で複数の方から声をかけられました。そこが本校の課題でもあって、なかなか自由にさせられないところを九段さんではできていて素晴らしいということもあったので、そういったところも、CNVをはじめ、各先生方の生徒とともに探究を考えていくという姿勢が結びついたのかなと思っています。

具体的に成果としましては、先ほど校長からもありましたが、ベネッセが主催する全国探究コンテスト2024、こちらは総数が1,300組あったそうです。その中で困りごと解決部門ということで、この生徒は地域医療のところで困っていることを何とか解決したいというので応募した結果、グランプリを受けたということです。こちらは3月19日に審査員の方々の講評もホームページにアップされるというところなので、そちらも確認していこうかと思えます。

それ以外につきましては、CNVも放課後を利用して課外プログラムというところで様々な分野にわたって興味、関心を引き出すような講座を開いております。そういったところで生徒も参加して、視野を広げて、より探究に興味を持つような取組をしております。こちらについては翌年度以降も継続していくところです。

海外につきましては、資料1の詳しい具体のところになるのですが、3番のグローバル教育というところで、来年度からのシリコンバレー海外派遣研修の実現に向けて現在調整しているところです。こちらについてもより最先端のところを見据えて、実際に現地で様々なところを見て生徒の視野が広げられるように、海外で活躍できるように、そういった生徒を育てられるように研修内容を詰めているところになります。

CNVについては以上です。

資料2の最後のキの学校経営・組織体制というところになります。安全衛生委員会のほうで、先生方を含め、これについては私が担当しております、達成度というところで80時間以上の残業者、こちらは年度当初のところ、今、勤怠システム上で管理している

のですが、17名おりました。100時間を超える者もいたのですけれども、安全衛生委員会で、本日欠席されておりますけれども、産業医の先生とも相談させていただいて、一覧を出してみてもどうか。個人個人の一覧ではなくて、分掌ごとの残業時間を出してみてもどうかというところのお話合いから始まって、実際にそれをリスト化して学校全体で共有し始めたところ、先生方の意識もあまり残っていてもよくないなという口コミがだんだん広がって行って、1月末時点では0名というところで80時間以上残業者が減っております。そういったところで、働き方改革も着々と進んでいるところになります。

続いて、あとは学年のほうです。後期課程のところを報告させていただきます。こちらは資料1の4学年のところからになります。

4学年につきましては、後期課程、高校課程に入ってきておりますので、自分自身で自分のことを管理して、生徒自らがいろいろ運営していく。そういったところを高めていくために、ホームルーム委員、生活委員等を中心に動いてきました。その中でだんだんと自分たちで動けるような体制が構築できてきたというような報告があります。さらには、進路活動のことを早めに意識させるというところで、模試の振り返りをさせていたり、面談を通じてそういったところを意識させる。そういった取組をしてきて、5年生に結びつけたいというところで報告が上がっております。

続いて5学年、高校2年生のところになりますと、今年度は学校の中心学年として様々な行事に取り組んでまいりました。そういったところから、生徒自身が学校をつくり上げていくといった気持ちも高めつつ、あとは来年度は進路活動が本番になりますので、様々な面談を通じて、または定期考査、模試の後、振り返りをしっかりさせて、進路意識を高めていくというような活動をしてまいりました。

ただ、2番の課題として考えているところが、どうしてもやる気が出ない生徒については、繰り返し面談をして生徒の声を聴いて、サポートして、面談を繰り返しながら進路実現を図っていく。そういったところも来年度取り組んでいくような報告も上がっております。

最後に6学年、高校3年生です。こちらは九段での6年間の学びの集大成の学年になりますので、ちょうど体育祭を行った後から担任団自身も気持ちを体育祭に全てぶつけて切り替えられたのではないかとこのところ報告が上がっています。ただ、受験が近づくにつれて、どうしてもなかなか模試で成果が出てこないですとか、本当に自分が目指すところに合格できるのかどうかというので精神的に弱まってくるというのですかね。自信がなくなってくる生徒がいたので、そういった生徒については面談を繰り返して最後までサポートして、そういった結果が結びついているというような報告も上がっています。ですので、そういった取組も最後の卒業認定会議のところでも6学年主任のほうから今までやってきた取組評価を学校全体で共有しておりますので、そういったところを含めて、5学年以降、来年度充実した学校生活を送れるようにというところで報告が上がっております。

私からは以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、後半のほうについて、御質問、御意見等はおありでしょうか。

どうぞ。

○委員 シリコンバレー海外派遣研修はまだそんなには決まっていなと思うのですけれども、どういうふうになされる予定なのか教えていただければと思います。

○後期副校長 あちらに本社を置いている企業の見学に行くとか、デザイン・テック・ハイスクールと人数が多数集まると九段の特別プログラムを組んでやりませんかというお話もいただいているので、今、そちらの調整で動いているところであります。

○委員 これは生徒が希望して行くということですよ。

○後期副校長 希望制です。説明会をオンラインで開いたのですけれども、保護者の方もかなり御興味があるみたいで、多くの方がオンライン上で説明会を聞いていました。

○委員 私の子供が通っていた頃は、オーストラリアに事前に行く子たちで20名募集したら、19人が女の子で、男の子はたった1人だったみたいな、今は男女関係ない時代ですけれども、シリコンバレーだと結構男の子も食いついてくるのかなと。

○後期副校長 何となく印象では女子生徒が多いと思います。

○校長 まだ募集はこれからなので。

○後期副校長 説明会とかいろいろ聞いたり見たりしてみると、女子生徒も混じったりしているのですよね。

○委員 そうなのですね。男女関係ない時代ですけれども、できるだけいろいろな興味を伸ばしてあげればと思ってこういうのが始まったのだと聞いていたので。

○校長 シリコンバレーは視察に行ったときにグーグル本社の中まで入れてもらったのです。創業者の方がふらっと歩くようなところに特別に入れてもらえたり、あと、アップルのところに行ったり、いわゆる最先端のところ、メガとかそういったところの本社に行ったりしました。

あと、デザイン・テック・ハイスクールというのはオラクルの附属の学校ということになっているのですけれども、科学的な研究を数多く学校としてやっている。その授業に参加させてもらって、これは20人必要なのですけれども、そうすると、そこで授業を受けたという资格的なもの、これは世界共通の資格ということになるのですが、それを発行してくれるというところまで話が行きましたので、スタンフォード大学に行ったり、スタンフォードはヒューレットとかパカードとかビル・ゲイツさんが出たところだったりするので、そういったところの方と話したり、あとは起業家の方と話すというような内容であります。シリコンバレーのベンチャーキャピタリストの非常に有名な方なのですけれども、その方が外部委員として入っていただいていますので、その方のお力添えでいろいろなことが計画されています。

多くの生徒を集めてくれるといいのですけれども、どうしても日本だと海外というと英語ができるということだけでみんな希望してくるので、全体的に女子生徒が多いです。イ

ギリスのバンガー大学もほぼ女子が希望して行っている。UCLAも、例えば20人いたとすると、15が女子で5が男子みたいな感じになってしまいますけれども、よくJICAの方なども言うのですけれども、もっとそこを変えてといってもらいたいなというのがあります。

○委員 何かほかの面で動機づけができるというか、英語に興味がなくとも、これがきっかけになって英語もできたほうがいいなと思ってくれるといいのではないかなと思って、すごいなと思ったのです。ありがとうございます。

○会長 よろしいですか。ありがとうございます。

どうぞ。

○委員 感想なのですけれども、80時間以上の残業者がいらっしゃる。すばらしい取組をいろいろやっていて、皆さん先生方もそこら辺は大変な御苦労だろうと。残業もあっても仕方がないかなと思いますが、できる限り先生方のメンテナンスもしっかりやっていたら感じました。感想でございます。

○会長 関連ですが、80時間以上の残業者の方がゼロになったよというお話でしたけれども、80時間以上の残業者の方、その前にはいらっしゃったみたいですが、残業には季節要因があるのですか。春が多くて、冬は少なくなるとか、夏が多いとか。

○後期副校長 担当する部署によって、時期に応じて入学式とかが多いときは教務。

○会長 そのイベントによってということ。

○後期副校長 イベントに応じて増えていて、あと、年度当初はどうしても学年の始まりなので、担任団が年度当初の準備とかで残業が増える。進路が本格化して総合型選抜とかが始まってくると、当然6学年が綿密に面談とかをするとか、未来貢献部がそれをサポートするとなると、どうしても時間が超えてというのですが、そこもうまく学校全体で分担して、1個に偏らないようにとか協力を得ながら、そういった成果になったのかなという印象ではあります。

○校長 生成AIのシステムの導入があって、それは教育だけではなくて校務もやっているのですけれども、1例を言うと、今まで試験問題を作るのに1週間かかったものが2～3時間でできるようになったと言っていますので、そういったものも結構、いつも文章なども全部管理職のほうで赤を入れて、最終的に私が見ていくので、そういったものも全て生成AIに食わせていますので、それで、実際には仕上げていく前にそういうチェックが入っていく。生徒たちの例えば英語などのいわゆるスピーキングなども全部チェックが入っていたり、ライティングも全部そうなのですけれども、チェックが入って、その分、非常に先生方は今までずらーっと並んでしゃべっていたのを動画で全部撮ってチェックを受けた上でできますので、その時間も生徒にとっても教員にとってもいいような感じで生かされています。残業が一番多いのはこの2人です。

○会長 ということは、精神力で削減していったのではなくて、ある程度業務のシステムの改善とかそういうので後戻りをしない改善が少しずつできてきているということで捉えていいのでしょうかね。

ほかにはありますか。

どうぞ。

○委員 感想ということでは、進学実績も途中報告でも素晴らしいと思いますし、いろいろな外部的な評価、表彰も受けていてすごいなと思います。しかも、それを先生たちの時間数も減らしながらというのは、僕は素晴らしい成果だなと思って、皆さんの御努力に敬意を表したいと思います。

また話は全然違うところで質問させていただくのですが、6年生の生活の仕方というのが、体育祭が終わった後は受験に専念するという風土をつくられているというお話をお伺いしたのですが、一方で、ほかの都立高校とかは、学園祭の9月、10月ぐらいまで3年生が取り組むような学校もあったりして、それはやる、やらないは全て生徒の自主性に任せるといようなスタンスを取っている学校もあるやに聞いています。皆さん受験に専念されるキャリアを目指している方もいらっしゃるれば、むしろ表現活動などの芸術的な活動をしていくタイミング、はたから見るとせっかくの場がなくなっているのではないかという見方もできるのではないかなと思います。6年生の九段祭の参加について、学校内でどのような議論がされてこの形態になっているか、あまり議論せずに行っているのか、その辺りの状況を伺わせていただければと思います。

○校長 九段祭ですよ。九段祭については、6年生は有志というか自由選択みたいな感じで、クラスで全員が発表するよというのではないのです。私は全員そこまでやればいいのにと思っているのですが、都立高校もそうなのですが、学校によっては全員参加する。有名なのは国立なのですが、国立というのは演劇で非常に有名で、最後、高校3年生はチケットが取れないぐらいに有名なので、保護者には前日に見させるというような取組をやっていますけれども、その勢いを持ったまま大学試験に臨むというようなところもあれば、進学重点校でもそうではなく、3年生は、うちは体育祭が5月に終わりますので、その後は受験に切り替えていくというようなところもやっておりますので、学校や学生の特性にも応じてというところかなと。

本校の場合、先ほど言ったように、やってはいけないということを言っているわけではないので、有志で参加したり、あるいは部活動で発表していますので、例えばダンス部とか吹奏楽部などは6年生が参加しているということになりますので、それぞれの特性に応じて、そういったところでの興味や関心がある生徒はそこで達成感を味わうというような形になっております。

○委員 生徒によっては受験勉強というプレッシャーがあるところのストレスコントロールというのは、受験だけではない九段祭などの創作活動への取組で発散させていたような記憶も自分自身や後輩たちの経験からはあるように思っています。どのような取組なのかなというのが気になっていたのと、九段の歴史的にも、特に最近のこういう東大、京大にいっぱい入るときと違っているところでは、学芸で身を立てたり、特に小説を書きたいとか、そういう文学の道を歩みたいとか、演劇をやりたいとかという人たちも結構周りにい

たものですから、その人たちからするとストレスフルな環境なのかなという心配をしまして質問させていただきました。校長のおっしゃっているとおり、九段祭の参加なども別に禁止していないのだということであれば、推奨するという事は難しいのかもしれませんが、最終学年のところは自主性に任せるというお話もありましたので、最後の体育祭後のいろいろな生活も充実したものであってほしいということで質問させていただきました。ありがとうございます。

○校長 芸術系を目指す生徒も結構いるので、それは授業を選択で取っていますので、そういう子たちはそういった方面に進んでいるというところですよ。

○会長 ほかによろしいでしょうか。

私のほうから1つだけ確認をさせていただきたいのですが、知の創造部の最後のところ、資料1の裏面ですね。裏側のカリキュラムマネジメントについてというところで、その中間から「都立に準じて」様々な取組をする「都立+1」の公立学校というのが立ち位置になっている。今年度は区立であることのアイデンティティを明確にし、国内外の大学進学に十分対応できる講座の云々とありますが、この「都立に準じて」あるいは「都立+1」という言葉が例年何年か続けて出てきていると思っているのですが、この辺についてはどのようにお考え、あるいはどういう方針でこのアイデンティティを確立させていこうと思っているのか御説明願えますか。

○校長 カリキュラムについては、都立高校の場合、通常、いろいろ各学校のスクールミッションに従って行っている。本校でもいろいろと九段ならではの行事を持っていたり、先ほど言ったようにグローバル系のもので、いろいろと夏季休業日中に取り組みんだりしていますけれども、例えば九段イングリッシュというのが有名なのですけれども、これは今度、22日の土曜日にも外部への説明を行いますけれども、そういったCAN-DO的なものというのは九段ならではの形になってきます。

そういったものを生かしながら、今はリベラルアーツということで文理関係なく全て、これは先ほど説明のあったいわゆるフル型受験というところにつながってくるのですけれども、全ての教科を捨てることなく、それが探求プランにもつながってくるということになっているかなと。総合型の受験者も増えていますが、総合型の場合には、そこで受かっても共通テストで何点以上取らないといけないという条件つき合格になってきますので、例えば医科歯科だったら7割取らなくてはいけないよとか、あるいは昔の東工でいうと8割取らなくてはいけないよとかという条件つきであるので、それはフル型ですので、そういったところに重点を置いているというところはあります。多分これは都立よりももっと頑張っていくのだという教員の思いもあると思います。

○会長 教育委員会が今日来られていないのですけれども、千代田区としては唯一の高等教育ということもあって、それなりに資金面とか予算面でも優遇していただいて、やはり都立に準じてというのとは差別化ができるというのは明確に、今、校長がおっしゃった中身にプラスアルファでどんどんそういうことが出てくれば非常にいいのではないかな

と思っているのですが、ちょっと空振りというか、教育委員会がいらっしやらないので。
○校長 都立と一番差別化が図られているのは教員の人数ですかね。都立の中高一貫校より定数的に10名多いのです。それは何ができるかという、いわゆる少人数習熟度別授業をほぼ全ての教科で、特に前期課程の生徒は全ての教科に少人数授業を実施できる。そこが一番優遇されているところです。ただ、講師の先生にお願いしなくてはいけない時数も当然増えてくるので、そこが今一番困っているところです。教員志望者がいない、講師の先生がいないということで、少ないこまを奪い合うという形になっていて、いまだに、をこれから探さなくてはいけない。2人で必死に探しているところなのですからけれども、ぜひその辺りは教員養成の大学にも頑張ってもらいたいところなのですからけれども、そういった状況はあります。そこが最大のところですかね。いろいろな教員がTTでやっていたり、少人数でやっていたり、非常に大きいと思います。

○会長 別件なのですが、広報活動のところで募集区分A区は応募倍率2.78倍ということで、非常に喜ばしい中身になっているのですけれども、実際には入学合格者定員が80名ですね。そうなったときに、入学辞退者とかそういうのはいらっしやるのですか。

○校長 今年の辞退者は例年になく多かったです。

○会長 無償化の影響が強いのですか。

○校長 そうですね。A区分の倍率が増えたというのはすごいことですし、実はB区分のほうも去年まで5.7倍あったのですけれども、今年は4倍ぐらいになったのですが、ほかの都立は2倍から3倍なので、それを考えると非常にまだ高いです。だから、九段に行きたいという生徒が多いのだと思います。

○会長 分かりました。ありがとうございます。今の人数の件に関しては了解いたしました。

ほかはおありでしょうか。

よろしければ、次に進みたいと思いますが、4番目、令和6年度学校経営診断評価アンケートの結果について、御説明をお願いいたします。

○後期副校長 よろしく願いいたします。資料3になります。

学校経営診断アンケート結果ということで、委員の先生方、アンケートの御協力ありがとうございました。

こちらのほうで3年間を追った数値の推移をまとめさせていただきました。全体的に見ておおむね肯定的な評価をいただいているというところで、一部、豊かな人間性というところで取組が不十分というような御評価もいただいている、こういったところを次年度に向けて生かしていければと考えております。

最後の7ページにつきましては、御意見等いただいたものを書いておまして、定性的評価ではなくて定量的というようなのも結果報告であるとよろしいのではということで、今回、そういった意見も反映して、最終報告という形で達成というような一表にまとめさせていただきます。

その他、いただいた御意見を受け止め、今後、次年度に向けてより学校活動を充実させていければと思います。

前回、前々回等でもいただいております質問の内容ですね。なかなか答えづらいところもあるので、そういったところもぜひ見直しをというような御意見もいただいておりますので、今回で令和4年から6年にかけて3年間の推移を見られましたので、こういった質問項目についてもどういった形で進めていくのがいいかというのをもう一回検討した上で、来年度、アンケートという形にまとめていきたいと思います。

以上になります。

○会長 アンケートに関して何か御意見、御質問はありますか。よろしいですか。

それでは、アンケートに関しては、アンケートでの御意見を早急に取り入れていただいて、先ほどの副校長からの説明も一枚の紙に集約していただいて、定量的な評価も含めて改善をしていただいて、ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

特になければ、最後の議題になりますが、その他ということで学校または事務局のほうから何かございますでしょうか。

○経営企画室長 経営企画室長からお話しさせていただきます。

今回の第3回目で現委員の任期中の最後の学校経営評議会となります。2年にわたりまして委員をお引き受けいただきましたこと、感謝申し上げます。

来年度以降の委員構成につきましては、別途、校長先生及び千代田区教育委員会と協議の上、委嘱をお願いする方に個別に御連絡をさせていただきます。

以上でございます。

○会長 この件に関してはよろしいでしょうか。

来年度というか、今年度の委員の方の任期というのが一応は6月末ということになるのですよね。その末までの間に次年度の委員の選定を行い、連絡が入るということでよろしいのでしょうか。

○経営企画室長 さようでございます。

○会長 おおむねそれが6月ぎりぎりになる。

○経営企画室長 そういうことはなく、新年度に入りましたら早々に進めていきたいと思っております。

○会長 分かりました。よろしく願いいたします。

では、続いて、まだその他のところで何かございますでしょうか。

今日配られた資料4に関しては、何か御説明がおありでしょうか。

○校長 至大荘行事については新たな要綱にしております。至大荘行事の検討委員会のこととかも前回もありましたので、資料をつけさせていただきます。

至大荘行事の検討委員会については、今まで長年続いてきた非常に大きな行事ですので、その行事を今後も続けていくためには、現在の法令ですとか規則、あるいは労基法上の問

題、働き方改革とかいろいろな関連法令があって、昨年には、皆さんも御承知されているとは思いますが、高体連の冬山登山で痛ましい事故があったので、その判決が出て、実刑判決が出た。これは学校教育の中で初めてのことなのですから、そういったことも踏まえて、そういった裁判の証言をされるような有名な先生に入っていたり、水難救済会というプロの方に入っていたりして、これから安全に学校行事をうまくしていくためにどうしたらいいかというようなことも踏まえて検討委員会を行ったということです。

その次第と、それから、遠泳について、実は東日本大震災以降、津波発生時についての安全ということで、遠泳とかはやらないようにということを出ているのだということと話はあったのですが、そういった中で、ライフセービング協会の方が陸上にいる監視員と海上にいる同行してついているライフセーバーとの連携を含めながら安全に行っていくと。その上でどうしたらいいかというようなところから新たな要綱を作成し、今年度から実施していく。

これについては、教員及び生徒保護者からは非常にいい取組になっているということでの評価をいただいておりますので、このような形で、ただ、毎年毎年法令がいろいろ変わっていったり、こういった行事についての見直しは教育委員会あるいは文部科学省からの通知というのでも出たりするものですので、それに応じて変えていかななくてはならないなと思っております。

これについては以上です。

○会長 これは令和6年度の経緯の説明ということ。

○校長 そうですね。前回、至大荘についてということで、新たな要綱を添付させていただいたということです。

○会長 何かございますでしょうか。

○委員 私からよろしいですか。

アンケートにも書かせていただいたのですが、今回、教育委員会のほうでも議会のほうでも一番話題になったのは、卒業生を使わなくするということが明言されて、諮られたという経緯があったかと。前回もお話しさせていただいたので、卒業生の我々としては、人数的にも、今回ライフセーバーの方々には3名の参加だったので、我々は大きい行事のときには30名ぐらいOBが参加して、安全面を見守ったり、遠泳の仕方についてのアドバイスをさせていただいたというところがあったので、やはり陣容面でも少なくなっているのではないかなという懸案をしております。

一方で、今回ライフセービング協会という一定の資格を持った方々の集団との関係性をつくられているという意味では、我々はどちらかというとならぶにそういうスキルを学んで伝えてきていますし、正直なところ、ライフセービング協会の講師にも来てもらって教えてはもらったものの、資格という意味では取ってはいない者がやっていたのも事実と。この辺り、どうやったら卒業生との関係を学校のほうがお考えいただけるかなというのが

大事なポイントかなと思っけていまして、やはり生徒からすれば、将来の自分のある姿みたいな形で卒業生が参加されている形というのは望まれていたのかなという思いもあります。ただ、今回は一切参加ができなかったというところでは、何らかの形で新たなルールづくりなり、新たな参加の手法なりということについては引き続き御検討いただきたいと考えております。その点について、前回も同じような質問をさせていただいておりますけれども、まだ菊友会、同窓会と学校と教育委員会で会話の最中とも聞いておりますけれども、現段階のその辺りの卒業生の参加について校長の御意見を伺わせていただけないでしょうか。

○校長 私の意見というよりは、部活動もそうなのですけれども、昔はOBが来て一緒に練習をしてやるというのはよかったですけれども、今は駄目なのです。そういうのは全部、これは部活動の事故だったり、指導死といった問題もあって、都立高校では十何年も前に駄目になっていたのですけれども、ここはそうではなくてということで、そういうのを整備していかなければならないということがありますので、当然、先ほど言ったように法規、法令に従ってというところで、検討委員会するときにも言ったのですけれども、OBの方でライフセービング協会の資格を持っている方がいるのであれば、ライフセービング協会に登録していただいて参加してもらおうというのが一番いいかなと思っけています。応援に来ていただく部分、クロスカントリーレースなどは尽性園で行っていますけれども、応援に来ていただいたり、生徒にメダルを授与していただいたり、そういった形で行っていただければと思っけています。

ただ、実はこの至大荘行事の最中は熱中症が一番危ないときで、東京都教育委員会が来年度以降はこの期間の行事の見直しを図るようというところで、非常に難しいです。ですので、今まで浜指導とかそういったところもあったのですが、それは多分できなくなってくる可能性があるなど。宿の問題とかそういったところも全て考えておく必要がある。それは今、話し合いの中でも出しておるのですけれども、そういった見直しも図られているというところは現実にあります。

ですので、私としては、とにかく生徒の安全第一と、あと、教員の安全も第一なのです。教員も具合が悪くなって倒れてしまう。特に教員のほうが生徒よりは体力的に難しい先生もいらっしゃるのです、そこも全部考えていかなければならない。何より法規、法令に従って進めていくということになるかと思っけています。

ですので、常に行事などでも一回決めたらずっとということではなくて毎年全て、実は九段祭もそうなのですよね。体育館で行っているのが、今、冷房をつけてもらっているのですけれども、そういった中でどういうふうに進めるかというので見直しを図っている。そういった状況です。

ですので、OBの方が参加してもらったり、こちらで今まで至大荘はどうだというような話にも入ってもらっていますので、そういったところで伝承していただくというのはいいのかなと思っけていますけれども、特に指導に実際に入るというのは、今、法的にも判例的

にも非常に難しいところにあると思います。

○委員 遠泳についての指導の入り方というところでは、先ほど判例という話で那須の話が引用されることが多いのですけれども、我々としてはあくまでも学校遊泳部の指導の下で、その範囲内でやっている。今までもそういう立ち位置でやってきているので、先生方の御指導を押しつけてやっているということではないので、多分過去もそうですし、これからもし指導に参画するとなれば、先生方の希望するスキームなり、やり方に合わせて、卒業生自身も単なる卒業生というだけでは参画が難しいというお話も今ありましたので、それについても考えていかなければいけないのだろうなと私は個人的には考えています。

ただ一方、まだ流動的なところもあると思いますし、人手を介するところであればうまく卒業生を使っていたきたいですし、今、熱中症の話が出ましたけれども、施設のにも冷房がないところでの活動ということで、先生方のいるところも一部は冷房が入っていますけれども、生徒のいるところは基本浜風頼りでみたいところがあるので、それについても施設面はどうしていくのか。長くやっていくのであれば、施設を含めた課題についても対応していかなければいけないのだろうなと思います。

ですので、引き続き、九段の施設については法人九段というところが管理しているわけですけれども、人的には菊友会ないしは菊友会の関係する中心のメンバーという関係でやっていますので、生徒にとって一番いいやり方、学校の運営として一番フィットするやり方というのは今後とも模索していく必要があるかなと思いますので、ぜひこの辺りのキャッチボールを続けさせていただければなと思います。よろしく願いいたします。

○会長 今この場ですぐ結論を出せる話ではございませんので、教育委員会も交えて話合いも進んでいると思いますので、質疑は打ち切りということにさせていただきたいと思います。

今日はいろいろ、御発言等、御意見もありがとうございます。

最後になりますが、ほかに皆様から全体を通して御質問あるいは御意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。結局、教育委員会は来られなかったのですけれども。

○事務局 では、事務局から1点お願いと御連絡です。

委員の机上に置かせていただいております緑の封筒の中に、前回の第2回の校正依頼資料が入っております。緑色の封筒はそのまま返信用封筒になっておりますので、校正するところは赤字で修正いただき、事務局までお寄せください。

あと、冒頭にも経営企画室長から説明がありましたが、本委員会は任期中最後の委員会となります。本委員会の円滑な運営と進行に御協力いただき、誠にありがとうございました。

○会長 今のお話で、この封筒を使って返却をするということで。

○事務局 さようございます。

○会長 分かりました。

では、ほかになければ、第3回の「学校経営評議会」を閉会いたしますが、拙い会長と

して議長を務めさせていただきましたが、皆さんの御協力をもって何とか無事終了することができたのではないかなと思っています。皆様の御協力に感謝をしたいと思います。ありがとうございました。